

たぶち たかひろ
田淵貴大氏 (大阪国際がんセンター・疫学統計部部長補佐) に聞く



改正健康増進法が2018年に公布され、20年4月の全面施行に伴って飲食店・事務所などの場所は原則、屋内禁煙となった。タバコへの規制強化の一方、近年、紙巻きタバコに代わり、「アイコス」や「グロー」といった加熱式タバコが普及しつつある。タバコ会社は紙巻きと比べて「有害物質が少ない」と宣伝するが、本当か。大阪国際がんセンターの田淵貴大医師に聞いた。

新型タバコのサイエンス

病気のリスク減らない「有害物質90%減」は印象操作

1千万人

加熱式タバコを吸う人が増えたように思います。

タバコの使用状況を調査した19年の研究では、新型タバコ(※)を吸う人は人口の11%に上ります。14年のアイコスの販売開始からわずか5年で約1000万人が吸うようになったという事です。ただ、紙巻きタバコも含めた喫煙者の割合は約2割です。で、普及は頭打ちになるのではないかと、と見えています。

なぜ短期間でここまで広がったのでしょうか。

タバコ会社の印象操作が大きいのと思います。健康意識の高まりを利用し、「有害物質を90%削減」などと宣伝

し、病気のリスクが減るかなようなイメージを与えています。しかし、タバコの注釈を読むと、「健康に及ぼす悪影響が他製品と比べて小さいことを意味するものではありません」と書かれています。タバコ会社のマーケティング戦略によって誤った認識を誘導されているのが実態です。

人体実験

加熱式タバコに切り替えても病気のリスクは減らないというわけですね。

紙巻きタバコの煙には5千種類以上の化学物質が含まれ、70種類は発がん性物質です。加熱式タバコの広告にある「90%削減」はあくまで9種類の化学物質に限ったこと。有害物質の量は減ったものが増えたものがあり、有害物質の種類は紙巻きタバコと同様に多いのです。全ての加

熱式タバコにニコチンが含まれ、タバコによる発がん性の大部分をもたらしているアルデヒド類は7〜8割減にとどまっています。科学的なエビデンスから総合的に判断すると、紙巻きタバコとほぼ変わらない害があるだろうと考えられています。

加熱式タバコの方が多く含まれる有害物質は、食品添加物として使われるグリセロールやプロピレングリコールなどの物質が紙巻きタバコより多く検出されています。これらの化学物質を大量に肺に吸い込んだ時、どのような影響が表れるのか。人類史上、初めての経験であり、実は誰にも分かっていません。確かなことは、加熱式タバコを長期間使用した場合には未知のリスクがあり、世界でいち早く加熱式タバコを販売・普及した日本で、人体

政界工作

実験」とも言える状況が進んでいるという事です。

重大なリスクがあるにも関わらず、規制しない理由は、改正健康増進法でタバコは原則屋内禁煙となり、大きく前進しました。しかし、100平方メートル未満の飲食店は例外扱いであり、加熱式タバコへの規制は緩められ加熱式タバコ専用喫煙室では飲食が認められています。

背景にはタバコ会社の政界工作があります。例えば国会議員を100人集めてきて、「タバコ会社から献金を受けているか」と尋ねると多くの議員が手を挙げるでしょう。私たちの代表であるはずの国会議員がタバコ規制に反対するのは、タバコ会社によって社会が歪められているという事に他なりません。今後、

タバコ規制を是正していくには、世論を高め、政治家に働きかけていくしかありません。

健康被害の問題で歯科医師に期待することは、最近の研究では、加熱式タバコに切り替えても歯周病は改善しないとの結果が報告されています (Yoshitaka, 2021)。歯の健康を維持するには紙巻きや加熱式を問わず、禁煙が非常に大事だということです。

むし歯や歯周病は他の病気と比べても有病率が高く、歯科健診の機会もあり、歯科医

※新型タバコ 加熱式タバコと電子タバコの総称。加熱式タバコは、紙巻きタバコのように直接火をつけるのではなく、タバコの葉を加熱してニコチンなどを含んだエアロゾルを発生させる方式。電子タバコは、ニコチンなどが入った溶液(リキッド)を加熱してエアロゾルを発生させる方式。日本ではニコチン入りの溶液の販売は禁止されている。



国宝・重要文化財④

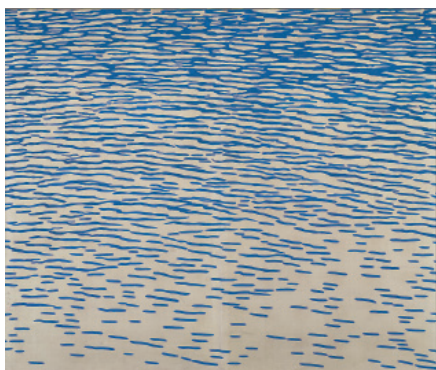
最も新しい指定品

大阪府下には国宝・重要文化財に指定されている美術品、建造物が650件あるが、その大半は大正以前のもので、昭和以降のものは1件のみである。今回紹介する大阪中之島美術館が所蔵する福田平八郎《漣》は、昭和7年(1932年)に制作された。昭和7年(1932年)は、主に京都を拠点に帝展、日展などを中心に活躍した日本画家である。1947年に帝国芸術院会員となり、1951年には文化勲章を受章した。《漣》は金箔の上プラチナ箔を重ねた画面に、群青のみで細かに波打ってきらきらとゆめめく水面の表情を描いた

絶妙なハーモニー

福田平八郎 (1892~1974)

さざなみ
福田平八郎 《漣》 (重要文化財)



昭和7年、絹本白金地着色、156.6×185.8cm、大阪中之島美術館蔵

音楽的な美しい画面

面は、群青のみで細かに波打ってきらきらとゆめめく水面の表情を描いた

作品で、平八郎が審査員を務めた第13回帝展に出

品された。

《漣》は1993年に

前年に始めた釣りに凝っていた平八郎は、昭和7年9月初めから10日程度をかけて、釣り竿と写生道具を手に琵琶湖を一周した。そこで誕生したのが本作である。平八郎は、「ある不漁の日、ウキをにらむ眼を水に移して見ますと、肌にも感ぜぬ微風に水は漣をたてて美しい動きをみせることに気がつきました。これを描いてみよう」と、自宅に戻りすぐに制作に取りかかった。その際、表裏層が誤って画絹全面に金箔を貼

大阪市が新美術館のコレクションとして購入し大阪にやってきた。それから30年余りの歳月を経て、ついに大阪中之島美術館は2022年2月に開館する。中之島4丁目

大阪中之島美術館

2022年2月2日オープン



「大阪と世界の近代・現代美術」をテーマに大阪市が建設。画家・佐伯祐三やモディリアアーニなど、近現代美術を中心に約6000点を所蔵。京阪「渡辺橋」駅から徒歩5分。

行事案内

お申し込みは 電話06-6568-7731

北大阪地区講習会
長期症例からセメント質剥離の経過と対応を考える
日時 1月22日(土) 午後6時30分~8時30分
会場 江坂・サニーストンホテル別館3階・富士の間
講師 宮本学氏(神戸市灘区歯科医師会副会長/宮本歯科・矯正歯科院長)
会費 無料 定員 80人
※本講習会は、講師をWEBでつなぎ、会場で視聴する形式です。

【Zoom併用】大阪市東部・北部地区講習会
GPのための矯正—治療結果をより進化させるために
日時 1月29日(土) 午後6時~8時
会場 M&Dホール(保険医会館東隣り)+Zoom
講師 常深伸介氏(神戸市開業、つねみ歯科医院院長)
会費 会員・スタッフ無料、未入会者1万円 定員 M&Dホール60人
※お申し込みは協会ホームページ「行事予定」からお願いします

田淵氏の著書を抽選で5人に贈呈



応募はハガキで①住所②氏名③本紙の感想—をご記入の上、協会までお送りください。当選者の発表は景品の発送をもって代えます。